

11月3日朝日



コロナ患者の診察をする田代和風医師(左)。前10時4分、東京都大田区・小松原次郎撮影

第8波 1日の死者最多に

新型コロナウイルスの「第8波」が大きく広がっている。2年ぶりに行動自粛の呼びかけがなかった年末から始まり、感染者は伸び始めだ。全国の死者は11日、朝日新聞の集計で520人となり、過去最多を更新。救急搬送の困難も極まり、現場の医師は「過去、最悪の状況だ」と話す。

11日午後半、「ひなた在宅クリニック」(東京・品川)の田代和風院長(36)は、40代の男性患者を回診に訪ねた。この田代、「体調が悪化した」という連絡が入り、駆けつけた。田代さんがこれまでに診たコロナ患者は基礎疾患がある人や高齢者が多く、100人

を越えていた。治療をいかに早く施すかが生死を分かつべきだ。ベッドは、狭さゆえに横たわり、ゼーザーと機械音を繰り返す男性に、すぐに点滴液を投与した。

患者が次々感染

第7波末では保健所から

在宅医療の医師「最悪の状況

新型コロナウイルスの「第8波」が大きく広がっている。2年ぶりに行動自粛の呼びかけがなかった年末から始まり、感染者は伸び始めだ。全国の死者は11日、朝日新聞の集計で520人となり、過去最多を更新。救急搬送の困難も極まり、現場の医師は「過去、最悪の状況だ」と話す。

▼裏面=高齢者施設でも

とんどだが、第8波では普段から診ている患者が次々と感染している。「これまでどないほど感染が身近になつていて。それなのに、社会の警戒感は大きくなっている」。がんばる意識でいる患者が感染して、緊張感が続く。

厚生労働省によると、10日までの1週間の感染者数は10万人あたり93.4人で、前週の1・28倍。病院のベッドも逼迫してきている。医療使用率は12日時点で55%。35都府県で5割を超過する神奈川県で85%、滋賀県で81%、福岡県で79%に達している。

救急の状況はこれまでとなく悪い。総務省消防庁によると、患者の搬送先がないなど、患者の搬送先がないなど、搬送困難事案は、1日平均で110番に40分つながらなかつたこともあった」と田代さんは明かす。

インフルも流行

今年は2年ぶりにインフルエンザも流行。定期接種は年内の1週間の感染者数

を越えて診療に回る。

コロナ患者を診察する医療機関は全国で約4万2千。20年11月の約2万4千

から約1・75倍に増えたが、それでも内急がある医療機関の6割程度となりま

る。「インフルと同様の

に、身近な医療機関で診療

できる体制ができなければ、同じ状況がいつまでも継り返されるだけだ」。田代さんは、そう強調した。(小松原次郎)